

## 伊東市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成30年4月19日(木) 午後4時～午後5時15分
- 2 場 所 伊東市役所高層棟4階中会議室
- 3 出席者 伊東市長 小野 達也 教育長 高橋 雄幸  
教育委員 井上 靖史 教育委員 山本 香織  
教育委員 沼田 芳美 教育委員 村上 恵宏
- 4 事務局 企画部長 中村 一人 行政経営課長 小川 真弘  
教育部長 富士 一成 次長兼教育総務課長 岸 弘美  
教育指導課長 操上 俊樹 幼児教育課長 稲葉 祐人  
生涯学習課長 杉山 宏生  
教育総務課課長補佐 鈴木 慎一  
教育総務課課長補佐 太田 靖久 主事 杉山 詩乃

### 5 会議の経過

**事務局**：それでは、定刻となったため、ただ今から伊東市総合教育会議を開催する。はじめに、伊東市長から挨拶する。

**市長**：皆様、こんにちは。本日は忙しい中参集いただき感謝申し上げます。言うまでもなく、人口減少社会になり、本市の少子化は大変深刻になった。平成28年では331人であった出生数が平成29年は326人になった。なんとか歯止めはかけたいが、今後も加速度的に進むことも予想される。今回議題としている子どもたちの教育環境の適正化は、避けては通れない状況となっている。特に、学校・園の小規模化は深刻な状況であると受け止めている。事実、幼稚園はすでに休園や統合を進めてきている。学校についても、集団活動という重要な環境を損なう恐れがあるので待ったなしの状況である。教育委員会においては、先行して検討委員会を設置してもらった。平成28年から約2年間、数多くの関係委員から広く意見を聴き、この度、建議を受けたものと聞いている。本日は、建議内容を確認しつつ、総合教育会議ということで、日頃から教育現

場の声を聴き、また、現場の課題に対し問題意識を持っている教育委員の皆様と、とりわけ小中学校の適正規模や適正配置についての意見交換を行い、本市の将来の子供たちにとってより良い教育環境の整備に向けた出発点としたいと考えている。限られた時間だが、議論してほしい。

**事務局**：続いて、教育長より挨拶する。

**教育長**：皆様、こんにちは。本日は大変ご多用な中、出席いただき、感謝申し上げます。伊東市の少子化が進む中、本日の議題である学校の適正規模及び配置については、極めて重要な議題であり、スピード感を持って進めていく必要を感じている。教育委員会としては、適正規模・適正配置検討委員会を立ち上げ、鳥居市議を委員長に20人の委員が5回にわたる審議を行い、昨年度末に建議をしていただいた経緯がある。伊東の子どもたちにとって、より良い教育環境を整えていくという視点を第一に考え、学校基盤整備をしていくことが求められていると考える。本日の会議を伊東市の子どもたちが健やかに、さらに支援できるような意見等を出していただく場にしたい。

**事務局**：議事に入る前に、総合教育会議の目的等について説明を申し上げる。

**事務局**：それでは事務局から本日の総合教育会議の議事に入る前に、確認ということで説明する。この総合教育会議は市長が招集し、市長及び教育委員会により構成されるものである。開催状況としては、平成27年5月、平成28年7月、平成29年12月に引き続いて、今回が第4回目の開催となる。総合教育会議は市長と教育委員会との対等な執行機関同士の協議・調整の場であり、その役割として主に3つある。1つ目は教育行政の大綱の作成、2つ目は教育の条件整備等の重点的に講ずべき施策の協議、3つ目は児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置の協議となる。本日はこの2つ目の教育の条件整備等の施策に関連して、「伊東市立学校の適正規模及び配置について」を協議いただきたい。

**事務局**：それでは、議事に入る。ここからの議事の進行については、第1回総

合教育会議で決定した「伊東市総合教育会議の運営について」のとおり、小野市長にお願いしたい。

**市長：**議事の（１）「伊東市立学校の適正規模及び配置について」、事務局より説明する。

（事務局より資料に沿って説明）

**市長：**それでは、ただいまの説明を踏まえ、皆様から意見を伺いたい。

**井上委員：**この問題は、すでに何年も前から分かっていたことであり、ある意味なかなか解決策のないものと感じている。建議書の中に１０歳から１４歳までの将来推計人口の推移のグラフがあったが、２０１５年から２０４０年に向けて半分になるというデータは、統合ありきで載せているようにも感じられる。各地域の学級数をみると、私が小学生だった昭和５７年頃に、例えば池小学校ではその頃も１学年１クラスしかなかった。細かい問題があったかもしれないが、１クラスしかなかったから池の子供たちはとても仲が良く、さらに児童全員の名前も知っていた。卒業した後も池地区の連携の良さというものは、他の地区にはないほどすごいものがある。完全に統合という話で進んでしまうのは一番容易な方法だが、例えば、税制の優遇をするような、子どもが育ちやすい環境を作ってあげて、どうにか伊東市に根付いてもらう、もしくは帰ってきてもらうメリットがある措置がとれば少し活性化されるのではないか。学校の行事を学校間で交代制や合同で行うなど、伊東市全体を挙げた大イベントにすることによって、伊東市そんなに悪くないなと思ってもらえるのではないか。

学問関係でいえば、競争相手は少なくなるのかもしれないが、少人数の方が吸収も良かったりするるので、ある意味メリットがあるのかもしれない。

学校を統合してしまうというのは、地域を消滅させてしまうことだと思う。建議書の中に書かれている「地域文化は学校を中心に育まれており、地域を守るためにも小さな学校を大事にする」というこれを軽んじてはいけないのではないか。統合ということで進めるのではなく、新たな道の模索もやっていただ

きたい。

**村上委員**：建議書について説明を聞き、きちっとまとめられていて素晴らしいと感じる。子どもの数を増やすということは、出生率の向上や企業誘致などということを考えると、そう簡単にはいかないだろうということが分かる。そういう状況の中で、小規模校の課題として、子どもたちの学習環境を優先して考えると、友達関係の固定化などを懸念している。小規模の中でも問題はないという井上委員の話などを聴くと、どのようにしていけば良いか考えられるかと思うが、検討委員会は地域の区長などを含めてのメンバーだったかと思うので、建議書の方針が良いのではないかと思う。いつまでに、どのようにするかなどは、特に保護者や地域住民の方にきちっとした丁寧な対応をしながら進めていくべきだと思う。

**沼田委員**：子どもたちにとってより良い教育環境をとということを第一に考えると、そういう環境を作っていくために地域住民としてはどういうことをしていけば良いのだろう、保護者としてはどういう考えを持ったら良いのだろう、というところを基本にして考えていくと少し進んでいくのではないかと思う。

学校の数とか地域意識とかそういったことに止まってしまうと先に進んでいけないので、10年20年先を見据えていくためにも、子どもたちを守っていくために大人がどんなことをしていって良いか考えていくべきではないかと思う。地域住民としては、行事をどうしていこうかなど具体的なことを考えてもらうことで変わっていくのではないか。地域性の強い地域に限って子どもの人数が減ってしまっていると思うので、そういうところに理解を求めていくためには、子どもたちのためにどうしていったらいいか、というところを見直してもらうことがすごく大事ではないかと思う。

**山本委員**：この検討委員会が立ち上がってから、子どもが少ない地域の親御さんたちは特に関心を寄せていると思う。ただ数だけで統合するのは簡単なことだが、それではやっぱりいけない。子どもたちの環境を一番に考えてあげない

といけないのかなと思う。その他に地域や保護者の方たちのことも考えて検討をしていかなければいけないと思う。小規模校の良さ、大規模校の良さは色々あり、デメリットも皆様考え方が違うので難しいなという気持ちがある。学区についても、池や宇佐美のような地理的に一つのまとまった地区もあるが、市内のほとんどのところは多少見直しをしても通える範囲なのかなと個人的には思う。万が一、統合になった場合には、金銭的なことでは交通費が、また、子どもにも親御さんにも時間的負担が発生してくると思うので、そのあたりも考えながら検討していくべきだなと思う。

**市長：**現状をまずしっかり見なくてはいけないというところから入りたいと思う。例えば川奈小学校の1年生が0人だったが学区に住んでいる子どもはいる。自分の子どもが小規模校に行ったときのメリット・デメリットを考えて、保護者の中には違う学校へ通わせているという状況もある。一方で、川奈小のOB・OGなど直接的な保護者を外れた世代や、さらにその上の世代の方からは、川奈小を守れという声も聴いている。色々な意見があるが、それが子どもたちのためにどうなのかということをしっかり考えたいと思っている。池小学校も全体で57名の児童が通っているが遠隔地区からも通っている。田んぼを授業に取り入れていることなどに魅力を感じており、特色のある学校として存続させるべきという意見も多くある。一概に人数で見ることでもないとも思っている。早く進めるには、数合わせでいくと確かにまとめられるところからまとめようとなるかと思う。しかし、私の意見としては、県立高校市内3校が丸5年経つと1校に統合されることになっているので、5年のうちに大きく環境が変わると思っている。その頃になると伊東市内の子どもたちの数も1クラス分くらい減ってくると思うので、現在市内の県立高校3校合計で1学年8クラスだと思うが、それをどのようにするか県の教育委員会も検討に入っている。そういったことを考えると、ひとつのきっかけが5年後にあると考えている。その間何もしないのではなく、今伺ったそれぞれの意見の中に、統合ありきで

はない方が良いという考えもあり、そうとばかり言っていられないという考えもあったと思う。これをどこかで結論を出していかなければならない。そういう意味では、私の考えはどちらかといえば問題の先送りは良くない、小規模校として残すならば残すなりの努力をするべきだと思うので、5年の間に実施するスケジュール感を持っていきたいと思う。建議書にあるように課題がある川奈小・池小・富戸小・東小・旭小においては、ひとつひとつの個別のものを精査し、またこのエリア内で子どもの数もおおよそ把握できているので、検討の課題として速やかに進める必要のある地域は、統合もしくは残す方針を出すよう議論を深めなくてはいけないという考えでいる。また中学校については、今のところそれぞれが独立してやっているとは思いますが、これからの人口分布や市内の状況を検討しながら、課題をまとめあげていく段階ではないかと思う。大別すれば、速やかに検討すべき学校と10年20年後の状況を踏まえて決定していく学校と2つに分かれるのではないかと思う。仮に統合した場合は、通学費等の経済的支援、よくあるものはスクールバスを出すなどそういったことも当然必要なことで、行政がやることだと思っている。地域ごとの状況も違うので、区長に話を聞いたりする機会等も設けなければならないと考えている。地域の声も反映させられたらと思っている。本日意見をいただいた中で検討し、教育問題懇話会に諮問していきたいと思っている。

**井上委員**：小規模のところが羨ましいと思うような、たとえば英語教育とプログラミングこの2つを特化してやってくれる小学校があったら、小規模校であれば効率が良く、機器も少なくすみ、ここに行かせたいと思う親もいるのではないかと思う。そういうモデル校を1つ作ることによって、移住者を呼び込むなど、攻めの方向から考えていけないか。そういった子どもたちは将来活動する幅が広く、在宅でもできる仕事を持つことができ、地域に帰ってくる可能性もある。何かに特化した学校というものが義務教育において可能なのか分からないが、もしそういったことが可能ならば活性化に大きく役に立つひとつの手

段かと思う。

**市長：**現在 ICT の活用や、英語教育も小学校で始まっていくので、モデル校を作っていくと他所から人口が増える期待もできるということだろうと思うので、これも参考にしたい。

**教育長：**建議書はしっかりと受け止め、方向性を出していきたいと思っている。やはり速やかにやっていかなければいけないところもあり、10年20年先を見てやっていくところもある。そのすみ分けをしっかりとしていきたいと思っている。中学校については、教科の問題があり、小規模になると免許を持っていない先生が免許外申請をして教科を教えなければいけないという切実な問題になってくる。大きい学校だと教科の専門の見識深い先生がきちとした授業を取り組める訳だが、人数が少なくなることによって、専門外の教師が申請をしてやらざるを得ない。教育の質を考えると、伊東市にとっていかなものかと思っている。小学校ばかりではなく、そういった意味で中学校も非常に切実な問題であることを認識していただきたい。実際市内でも免外申請をして、苦勞している学校がある。学力の部分を考えて真剣に考えていかななくてはならないと思っている。魅力ある学校については、色々な視点で教育委員会としても研究していく訳だが、そこには予算や人の問題もあるので、関係機関とも連携を取りながら進めていきたい。子どもたちにとって大きく社会が変わっていき、グローバル化も進み人工知能などもある中で、子どもたちが生きていく力をつけていけるようなシステム作り・学校作りをしていかなければいけないと思うので、それにはどうあるべきかという視点で考えていきたい。かなりスピード感をもってやらないと伊東は遅れていく可能性がある。

**市長：**色々な考え方があがるが、私としては結論を早く出すべきだと思っている。個人の考えだが、この先の子どもたちの住んでいる地域の状況・環境を考えたときに極端な小規模校は解消すべきであろうと基本的には思っている。統廃合を理解してもらうためには、保護者、地域の方、卒業生の皆様も含め納得のい

く形、分かりやすく言うと跡地を何かに活用できるかどうか、地域が寂れないように手立ても同時に考えた上で、地域の皆様に理解をいただくことを私個人としては考えている。諮問はなるべく具体的な内容をお願いしていきたい。先ほど5年と言ったが、5年に囚われるのではなく、10年20年先統廃合が必要になってくると、小中一貫校なども含めて考えていかなければいけないと思っており、現状をしっかりと飲み込み、長期的なことも考えていきたい。

**井上委員**：小中学校は分からないが、高校では今年から免許外が一切不可となった。この場合は、制度的な問題かと思われる。専門の先生が来てくれればいいのかと思う。県などがしっかり割り振りをしてくれれば、解消されることではないかと思う。お金で解決できるところはしてもらって、色々な視点で考えてもらえたら有難い。

**教育長**：免許の件だが、教職員定数があり、生徒数に対して割り振られるので、専門の教科の先生が入れない場合がある。これは法的な部分があるので、厳しい現状がある。

**沼田委員**：統合によって廃校になった後でも、地域と子どもたちとの交流ができるように整えていくと良いのではないか。

**村上委員**：子どもを一番に考えなくてはいけないが、地域の人たちがどのように思っているのか、跡地をどのように利用していくのか、地域の方の協力が必要ではないか。どうしたら賛成してもらえるか聞いていけたらいいかと思う。

**市長**：私もボトムアップということで、生の声を現場で聴いているので、学校現場や保護者、地域の方々の声もしっかり聴いていこうという姿勢は貫いていこうと思っている。

**山本委員**：保護者の方よりも OB・OG の意見の方が声大きい分通ってしまう。保護者の方はそういったことではなく、子どものことを考えているからこそ、多少のことは理解してくれるのではないかと思う。今大変だが、弟・妹や次の世代の時に良くなっていればいいという考えの方も多いと思う。時には我

慢をしていただき、子どもたちのために今後のことを考えて保護者や先生、地域の方々と話をしていくことが大切だと思う。

**市長：**まさしくその通りかと思う。地域ごとに学校ごとに全然違い、色々な状況があるが、よく声を聴いて進めていくべきだと思っている。

**教育長：**実際の問題として、統廃合を進めるうえで交通の問題がかなり大きいと思う。他市町においても統廃合の計画を進める上で、交通のあり方ということと同時に検討している部分がある。その辺りも視野に入れてやっていく必要があると個人的には考えている。親の教育にかける負担が今後出てきたときに、どうケアしていくかも含めて議論していく必要があるかと考えている。

**市長：**統合をするならばその課題として具体的なものが出てきて、特例校として小規模のところも残すのであれば教員をどうするのかなどの課題もある。実際の教育の質を考えたときに色々なケースを含めて考えていくべきだと考えている。

**市長：**多くの多角的な意見をいただき感謝申し上げます。基本的には子どもたちを主に考えるべきだと思っているので、将来的なことも含め、子どもたちが楽しく過ごし、楽しく勉強でき、毎日学校に行きたくなるようなより良い環境を作ることが私たちに課せられた使命であり、責任であろうかと思う。次に予定している教育問題懇話会の審議が、具体的かつより充実したものになるよう、教育委員会においては今日の意見も踏まえて準備をお願いしたい。

**市長：**それでは次に議題（２）「その他」とする。皆様から何か意見等があればお願いしたい。

（ 意見・質問なし ）

**市長：**それではこれで本日の伊東市教育総合会議を終了する。